

テナガエビ（北浦）



生態的特徴等：

【生態】

- ・河口域や湖沼などの流れのゆるやかな水域に分布し、本州、四国、九州など国内に広く分布する。県内では、利根川水系、牛久沼、霞ヶ浦・北浦、涸沼、那珂川水系、久慈川水系などに分布する。
- ・寿命は、メスが1年、オスが2年といわれ、オスは第2胸脚が体長以上に長くなる。
- ・霞ヶ浦・北浦における抱卵期は、5月下旬～9月頃で、盛期は7～8月。ただし、抱卵は水温の影響を受けるため10月や11月まで続くこともある。
- ・季節的には、水温の高い6～9月は沖から岸近くまで分布するが、水温が低下する10月以降は主に沖合の深所に主に分布するほか、物かげに蟄集する傾向がある。

【漁法と漁期】

- ・わかさぎ・しらうおひき網漁業（トロール漁）、いさざ・ごろひき網漁業（横ひき）など底曳網やます網漁業（張網）、つけ漁業（笹浸）などで、周年にわたり漁獲される。

【資源管理の取組】

- ・トロール漁において、資源動向に応じた操業時間の変更などの取組が行われている。

【利用】

- ・霞ヶ浦北浦で漁獲されたものは釜揚げや佃煮、素揚げ等として食される。稚エビは地元で「ザザエビ」と呼ばれ、成長したエビよりも軟らかく食べやすい。

資源診断：

資源水準は低位、動向は横ばい傾向	水 準
	低位
	動 向

（漁獲量）H3 から H9 年には 100～280 トンの水準で推移したが、H12 年以降は減少傾向になり、H15 年には 9 トンとなった。H16 年に 35 トンとなったが、H17 年以降は 20 トンを下回るようになり、R1 年以降は 0 トンが続いている（図 1）。

（水準と動向）R5 年の資源水準は過去 30 年の漁獲量から「低位」、R6 年までの直近 5 年間の動向は、操業日誌を基に計算した CPUE（kg/隻・時間）の傾向から「横ばい」とした（図 2）。

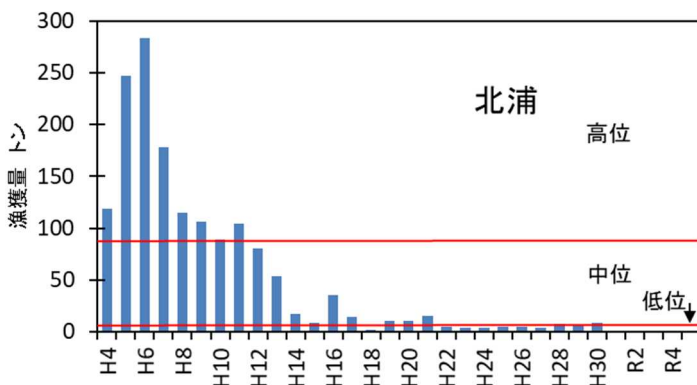


図 1 エビ類の漁獲量（農林水産統計、属人）

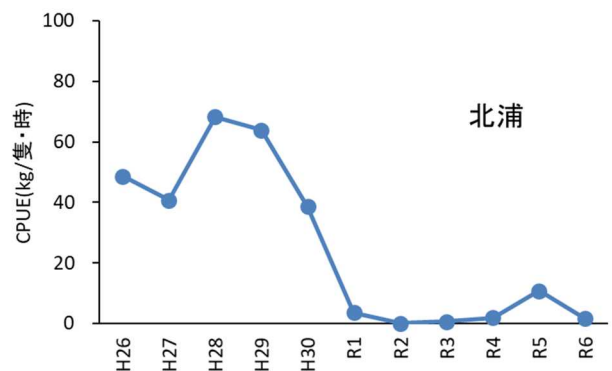


図 2 エビ類の CPUE（トロール 1 隻・1 時間当たりの漁獲量 kg）

※R2, R3 は記録なし

【全国の漁獲順位】エビ類 R5 年：1 位：茨城県、2 位：滋賀県、3 位：北海道

（使用データ）資源水準：令和 5 年までの農林統計値 資源動向：令和 6 年 12 月までの操業日誌

更新日：令和 7 年 4 月 23 日

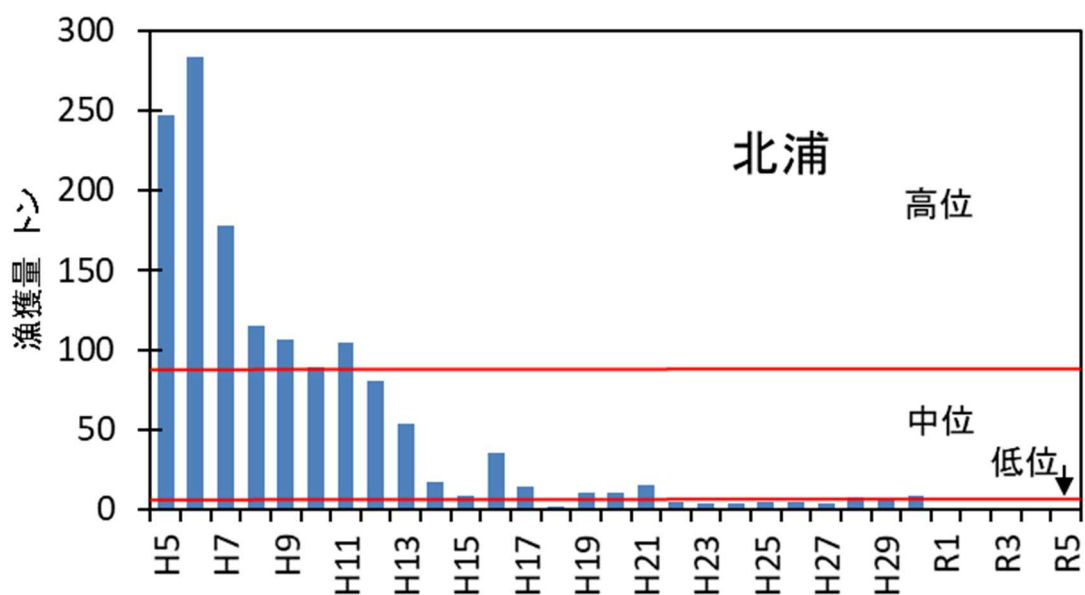


図1 エビ類の漁獲量（農林水産統計、属人）

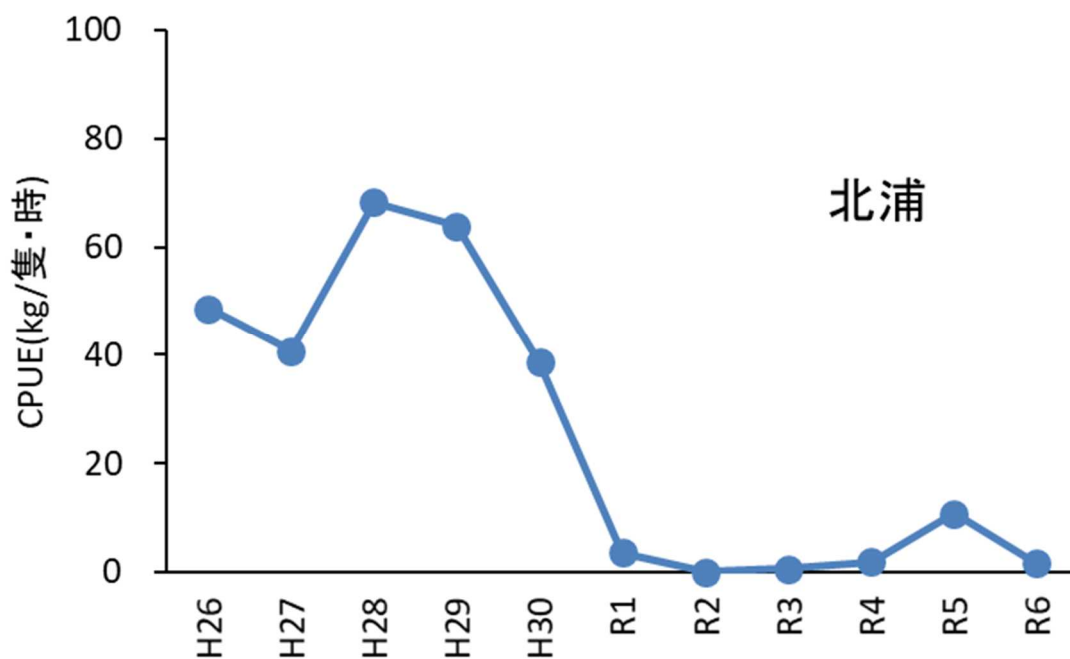


図2 エビ類のCPUE（トロール1隻・1時間当たりの漁獲量 kg）
※R2, R3 は記録なし